

長岡市障害者自立支援協議会 課題一覧表

平成29年2月27日 更新

No.	課題のタイトル	課題の概要	課題が生じている原因(課題の背景)	目指すべき状態	目指すべき状態に向けた解決策(課題の原因解決のための具体的な取組内容)			結果(具体的な取組の進捗状況や実施結果)	成果(取り組んだ結果のモニタリング)	課題の登録日	課題の提出元	課題の取り扱い状況	
					誰が(どこが)	何を	いつまでに						
1	重度の身体障害者の入浴手段	<p>『医療行為や重度の身体障害がある場合の入浴手段が少ない』</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障害福祉サービス(居宅介護)によるヘルパー2名と家族の協力(人工呼吸器を使用しているため)により、自宅にて入浴を週1回実施。合わせて短期入所を利用し、事業所の体制や他利用者の状況により入浴できる場合は入浴している。 ●現在の居宅介護、短期入所のみでは十分な入浴回数の確保ができていないが、現状では他サービス等の利用により入浴を行う方法がない。このため、家族が入浴の協力を行えなくなった場合、入浴が全くできなくなるといった状況も生じる可能性がある。 	<p>①移動入浴の利用要件が厳しく、利用対象とならない。</p> <p>②医療行為が必要な方を受け入れられる施設が少ない。</p> <p>③制度上、ヘルパーと訪問看護の同時利用ができない。</p>	<p>医療行為や重度の身体障害のある方が入浴できるメニュー(社会資源)が増える。</p>	<p>①の課題の原因に対する取り組み(ワーキングにて実施)</p>	<p>長岡市福祉課 障害活動係</p>	<p>ワーキングでの検討結果を元に、移動入浴の制度改正を行い、対象者を拡大する。</p>	<p>平成27年度中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●移動入浴ワーキングを立ち上げ、『移動入浴制度を利用しやすいものにする』という目標設定を行い、現行の移動入浴制度について検討を実施。要件の緩和や制度の改正等につながった。 ●ベストな形(将来的に必要とされるが検討や結果を出すのに時間がかかってしまうもの)とベターな形(取り組むことで比較的短期的に結果を出せるもの)に整理し、検討を実施。 <p>【ベストな形】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動入浴と他の福祉サービスの併給ができる。 ・障害要件の緩和(身体障害のみでなく知的、精神等も対象とする)。 <p>【ベターな形】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家族の介助が得られるもの」という家族要件の撤廃 ・実施日の要件変更。委託している事業所の営業日に合わせ、土日祝日も利用可とする。 ・「重度の障害者」との規定があるが、重度の要件が明確ではないため、弾力的に対応できるように要件を変更。 <ul style="list-style-type: none"> ●結果として、ベターな形として上げた内容については、福祉課にて移動入浴の要綱改正により対応できるため要綱改正の実施となった。ベストな形については、対象者の大幅な拡大となるため、移動入浴事業の予算的な問題もあり、改正に向けた検討の継続が必要となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ワーキングで決定した要綱改正(ベターな形)を行った結果、移動入浴を利用できる人がどの程度増えたかについてモニタリングが必要。また、ベストな形で要綱改正が実施できた場合についても、利用者の状況変化についてのモニタリングが必要となる。 ●課題の原因②、③についても移動入浴の要綱改正で「目指すべき状態」に近づけられないようであれば改めて検討が必要。 	平成27年度	(旧)相談支援連絡調整会	結果に対するモニタリングを実施予定
					<p>課題の原因として②、③も上げられるが、比較的取り組みやすく目指すべき状態に近づけることから、本課題においては①の原因をピックアップし課題の解決を図ることとした。</p>								
2	栃尾地域の移動手段	<p>栃尾地域で暮らす身体障害のある女性(40代)の事例。</p> <p>進行性の疾患であり、機能維持のために旧長岡市にあるリハビリができる事業所の通所利用を希望。しかし、事業所から「送迎については片道のみ対応、冬期は対応不可」との返答だった。公共交通機関はバリアフリーの対応が普及していないことや、福祉サービスについても要件的に利用が困難。距離が遠く毎回タクシーを利用するのは金銭的負担が大きく現実的ではなかった。また、もともと買い物や外食などの外出が好きであり、好きな時に出かけられるようになることを希望したが、移動手段に限られており、好きな時に外出することが難しい状況である。</p>	<p>栃尾地域においてサービス提供事業所へ通う交通手段、余暇を楽しむ外出のための交通手段が少ない。</p>	<p>好きな時に外出できるよう、移動手段が整う。</p>	ワーキング	<p>栃尾地域の地域福祉連絡会議を活用し、地域における移動に関する課題や手段について、困りやニーズを持っている人の実態調査を行う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●ワーキングを立ち上げ、対応案を検討した。ニーズ把握のためにまず何をするのかを話し合った。話し合いを受けて、ワーキングでどのようなことをしていけそうか目標設定を行った。 ●下記の作業について、次回のワーキングで「いつまでに何を行うか」のスケジュールを立て、スケジュールに基づいて取り組んでいく。 <ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題の確認 ・解決策の設定 ・解決に応じた具体的取組 ・取組の確認と修正 <p>【次回開催予定】平成29年4月以降</p>	H29.1.18	相談支援部会	H29.2.16 ワーキング開始。		

長岡市障害者自立支援協議会 課題一覧表

平成29年2月27日 更新

No.	課題のタイトル	課題の概要	課題が生じている原因(課題の背景)	目指すべき状態	目指すべき状態に向けた解決策(課題の原因解決のための具体的な取組内容)			結果(具体的な取組の進捗状況や実施結果)	成果(取り組んだ結果のモニタリング)	課題の登録日	課題の提出元	課題の取り扱い状況
					誰が(どこが)	何を	いつまでに					
3	計画相談支援及び障害児相談支援の基盤整備	平成24年の計画相談支援及び障害児相談支援の制度化により、対象者・相談件数が大幅に増加し、事務処理の大きな負担等、計画相談支援及び障害児相談支援の対応に忙殺されている状況が継続している。これにより本来担うべき相談支援が十分に実施できないことや、相談支援自体の質の低下が懸念されている。	計画相談支援及び障害児相談支援については、これまで量的整備(オールケアマネの達成)に向けて取り組んできたが、長岡市の相談支援の現状に対応しうる基盤整備が十分に実施できていない状況である。	質的な基盤整備がなされることで、長岡市における相談支援の資質向上と、本来担うべき相談支援を実施できる。	ワーキング	計画相談支援及び障害児相談支援の質的整備に向けた具体的な取組内容を検討し、検討結果を整理する。	平成29年6月まで			H29. 2. 27	相談体制部会	ワーキング開始予定
					長岡市福祉課 障害支援係 長岡市基幹相談支援センター 指定相談支援事業所	上記で整理された具体的な取組を実施する。						
4	支援者が地域移行を知る機会が少ない ※障害者支援施設(身体障害)からの地域移行	障害者支援施設(身体障害)で24時間の生活支援を行っている側としては、入所者が地域で生活することのイメージを持ちづらく、施設と同程度の支援の提供方法や医療面、住まいのハード面などを考えると、どうしても地域移行に対してネガティブな視点になってしまう。	●身体障害者の地域移行の事例が少ない(知らない)ことや、地域のサービスや社会資源、支援体制を知らないといった支援者の情報不足。 ●支援者に地域移行に関する知識がないために、入所者の生活支援を行う中で、入所者に地域移行を働きかける良い方法がわからず、入所者の本音を聞く機会も少ない。	支援者(送り出す側)が地域を知ること、支援の幅や入所者への関わり方、アプローチに良い変化が生まれる。	地域生活移行部会	支援者が地域移行や地域を知る機会づくり →研修会 →地域の社会資源見学 →地域移行事例の確認		平成29年度の地域生活移行部会で、課題の解決に向けた具体的な取組内容について継続して検討を行う。		H29. 3. 15	地域生活移行部会	部会で継続検討
5	家族の地域生活の対する不安と将来の不安 ※障害者支援施設(知的障害)からの地域移行	障害者支援施設(知的障害)から地域生活への移行を進めていく中で、地域生活が可能と思われる入所者でも家族の理解や了解がないと地域移行するための土俵にもあげることができず、地域移行を進めることができない。	『家族の想いや不安』 ●「施設=終の棲家」という家族の認識もあり、地域移行や新しい生活となることに消極的。 ●「本人が高齢になったらどうするのか」、「金銭面は大丈夫なのか」、「〇〇ができないから施設以外では生活できない」など、将来や金銭面が不安。 『支援者(送り出す側)の想い』 ●地域移行の説明を行う中で、家族や本人の不安を軽減することが困難。 ●高齢化等により、グループホームでの生活が困難となった場合の対応を説明できない(対応策がない)。	家族が安心して地域に送り出せる。	ワーキング	地域移行の普及・啓発を目的に、地域移行後の生活について家族が安心できるようなパンフレット、Q&A集(家族の不安の声を反映したもの)を作成する。	平成29年9月まで	平成29年度から、パンフレット等の作成に向けたワーキングを開始予定。		H29. 3. 15	地域生活移行部会	ワーキング開始予定

長岡市障害者自立支援協議会 課題一覧表

平成29年2月27日 更新

No.	課題の タイトル	課題の概要	課題が生じている原因 (課題の背景)	目指すべき状態	目指べき状態に向けた解決策 (課題の原因解決のための具体的な取組内容)			結果 (具体的な取組の進捗状況や実施結果)	成果 (取り組んだ結果のモニタリング)	課題の 登録日	課題の 提出元	課題の 取り扱い 状況
					誰が(どこが)	何を	いつまでに					
6	高齢者が地域移行できる場が少ない ※精神科病院及び宿泊型自立訓練施設(精神障害)からの地域移行	入院患者や施設利用者が高齢化している傾向にあるが、高齢化となることで地域移行できない要因も増えてしまう。 様々な要因があるが、地域移行を考えた場合、どこで生活するとしても身元引受人の確保が必要となり、身元引受人に関する課題が生じてしまう。	●身元引受人自身の高齢化 →世代交代で担う人がいない、親は兄弟などに責任を負わせたくない ●身元引受人に期待される役割が多い ●成年後見制度では担えない役割がある	身元引受人の役割が整理でき、地域移行に協力してもらえる体制ができる。	地域生活移行部会	●身元引受人の担っている役割(求められている役割)を把握する。 ●成年後見人が担うことのできる範囲を把握する。 ●求められている役割のうち、成年後見人が担うことのできない役割の部分はどうしていったら良いのかを検討。	平成29年度の地域生活移行部会で、課題の解決に向けた具体的な取組内容について継続して検討を行う。		H29. 3. 15	地域生活移行部会	部会で継続検討	
7												
8												